

(件名) イベルメクチンの新型コロナに関する報道に大きな誤りがあることを鹿児島県のサイトなどで示すことを求める陳情

(陳情の趣旨)

今年3月31日のNHKのニュースで、「イベルメクチン臨床試験 新型コロナの入院予防効果認められず」というタイトルのニュースが流されました。この報道は今年3月30日にThe New England Journal of Medicineに発表された次の論文の内容を伝えたもの。

Effect of Early Treatment with Ivermectin among Patients with Covid-19

しかし、この報道は少なくとも次に挙げる3点で偏った、または、明確に間違っただけのものではない。

1. 事実として、アメリカ国内で相当な規模で実際にイベルメクチンが新型コロナ感染症の治療に使われていること。

アメリカ国立衛生研究所による新型コロナウイルス感染症治療ガイドラインにおいて、「担当医師の判断に従って（イベルメクチンの）適応外使用が可能」であることを示す改訂が2021年1月14日にされた結果、2021年8月13日までの1週間で見ると、「米国においては新型コロナの新規感染者のうちの9.7%までがイベルメクチンの処方を受けている」こと。（「イベルメクチン新型コロナ治療の救世主になり得るのか」大村智 編著の111ページ）

2. 今回のNHKの報道は、イベルメクチンが新型コロナ治療に有効であることを示す多くの治験結果が出ていることを無視したこと。少なくとも、無効であるという論文だけを取り上げるのではなく、有効であることを示している論文との両論併記をするべき。

例えば、COVID ANALYSISというサイト (<https://ivmmeta.com>) には、「早期治療では83%、後期治療では51%、発症予防では89%の改善が認められる」とされていることや、2021年9月22日の記事では、「早期治療28件ではプレプリントが8件、査読済みが20件、後期治療22件ではプレプリントが8件、査読済みが14件、発症予防14件ではプレプリントが5件、査読済みが9件」（「イベルメクチン新型コロナ治療の救世主になり得るのか」大村智 編著の119ページ）であり、新型コロナ治療薬として非常に有効であることが多くの査読済み論文で、2022年3月30日の数か月も前に報告されていたことになる。

3. NHKの報道のもとになった研究は、世界的なTogether trialの一環として行われたものだが、このTogether trial全体に大きな欠陥が幾つもあることが指摘されていること。

例えば、TOGETHER Trial - Index of Articles & Podcasts (<https://doyourownresearch.substack.com/p/together-trial-index-of-articles>) では、10以上の瑕疵を具体的に指摘。イベルメクチンを治験期間中、勝手に服用しないとか、治験機関に入る前に服用していないことを確認したと論文には書かれているが、イベルメクチンを治験前に服用していた場合、どのような基準で判定するか等の基準の記載がないことなどが述べられている。

以上の趣旨により、下記のことを陳情します。

記

1. 県の新型コロナに関するサイトなどで、新型コロナに対するイベルメクチンの効果があるか無いかについては、世界的に議論が行われていて、少なくとも、効果がないとか有害であるという話は信頼性がないことを述べること。

2. 新型コロナ感染及びそのmRNAワクチン接種による健康被害からの回復にイベルメクチンが効くとしている専門家の報告が多数あることを紹介すること。

以上